



地球上すべての人びとに平和に生きる権利を

9条地球憲章の会 第42回公開研究会

鈴木敏夫さん講演

昨今の教科書問題と令和書籍『国史』検定合格による新たな局面 ～平和と民主主義を脅かすもの～



鈴木 敏夫 (すずき としお)

◇プロフィール

千葉県出身、信州大学人文学部文学科国史専攻卒業、都立高校社会科教員(6年間組合在籍専従:「日の丸・君が代」強制反対などに取り組む)、横浜国大、首都大学東京、都留文科大学、立正大学で「道德教育」「教科教育法」などの非常勤講師を歴任、現在、子どもと教科書全国ネット21代表委員、前事務局長。

◇著作など

「明治憲法下国史観を彷彿? 令和書籍『国史教科書』は子どもの学びにふさわしいか」(週刊金曜日 1481号、2024年7月)『関東大震災 100年の今を問う—虐殺否定・歴史改ざんを許さず』(編集日本経済評論社 2024年)「関東大震災朝鮮人虐殺についての教科書記述の現状」(『法と民主主義』第584号 2023年12月)『千円札の伊藤博文と安重根—入管体制、日韓協約、教科書検定から制度と社会を考える』(共著社会評論社 2022年)

12月20日(金) 午後6時30分～8時30分

オンライン ZOOM による開催

参加費: 1000円

申し込みは、

次の URL か右の QR コードから

<https://forms.gle/ASBvhtLTQVKwMrg27>



【講演要旨】 「戦争できる国」から「戦争する国」に一気に駆け上がっている今の日本。教科書でもそれを支える動きが活発化している。

1) 教科書記述に対する政府の直接介入

2000年12月から新たな教科書攻撃が始まっていた。「つくる会」などは、山川出版の教科書の「従軍慰安婦」記述に対して、文科大臣に「発行者に対し『従軍慰安婦』の記述を削除するよう訂正申請勧告をすることを求めます」と申し入れ、文科省はこれに応じなかったが、翌年日本維新の会の馬場議員は質問主意書を提出し、政府見解となる菅内閣の以下の答弁書を引き出した。①「いわゆる従軍慰安婦」、「従軍」と「慰安婦」の組み合わせも問題で、今後は単に「慰安婦」が適切である。②「朝鮮半島出身の労働者の移入」は、「強制連行」または「連行」ではなく「徴用」を用いることが「適切」である。結果、「従軍」「従軍慰安婦」や朝鮮人に対する「強制連行」は、ほとんど削除された。

2) 中学校歴史的分野に、新たに令和書籍が参入

新たに登場した令和書籍は2点合格し、中学歴史教科書「国史教科書 第7版」を採択に付した。戦前の皇国史観を彷彿させる内容や、慰安婦の記述でも1993年の「河野官房長官談話」を全面的に否定するなど、教科書問題にとどまらない新たな局面が生まれている。

平和と民主主義を脅かす問題として警鐘をならしたい。

連絡先 9条地球憲章の会事務局

9.globalpeace@gmail.com

HP <https://www.9peacecharter.org/>

FB <https://www.facebook.com/9peacecharter/>